



令和7年(2025)

3/19 [水]

履正社中学校

〒561-0874

大阪府豊中市長興寺南4丁目3番19号

TEL: 06-6864-0456

FAX: 06-6865-1508

学藝コース2年生が取材し、記事を書きました。記事・レイアウトは産経新聞社の協力を得て作成しました。

中高 交流深める場に

高見先生 ニュースポーツ大会企画



「中高生同士が交流できる行事をつくりたかった」と高見頼久先生は熱く語ってくれた。私たち取材班は、2023年6月から毎年、中高合同で実施されている「ニュースポーツ大会」について、企画を担当されている高見先生に、大会の目的や種目などについてインタビューを行った。高見先生は履正社高校で社会科と総合的な探究の時間を担当している。

同大会は履正社創立100年目を記念して開催されており、今年度で2回目だ。高見先生によると、「中高合同で開催される行事は、芸術鑑賞会や文化祭などがあるが、あまり生徒同士が深く関わることができていなかった」という。そのため、中高生の交流を増やす機会にしたいと、同大会が始まった。同大会では、各クラスが少人数のグループに分かれ、中高関係なく対戦する。高見先生は「一緒に活動すると、普段気づけないことも気づくことができる。学びを楽しくするために開催している」と意義を語った。次に、大会の種目が「ボッチャ」の3種目になったか質問をした。高見先生は、生徒に興味を持ってもらいたいという思いで、ボッチャ、スノーボード、スノーシューの3種目を選んだ。ボッチャは、中高生が比較的取り組みやすいスポーツで、かつ、中高生が一緒に楽しめるという目的があった。高見先生は、生徒に興味を持ってもらいたいという思いで、ボッチャ、スノーボード、スノーシューの3種目を選んだ。

担当の三森先生 生徒らのインタビューに答える三森先生。私たちが履正社中学校から高校3年生までドイツ学藝コースの生徒にとって重要な科目である言語技術。私たちはそんな大事な科目の設立者である。三森先生は言語技術教育研究所の所長であり、授業を担当している。三森先生は「言語技術教育(母国語教育)であると感じ、日本に帰った際、日本人にも教えたかった」と話す。三森先生は「言語技術教育を始めたきっかけは、履正社中学校で言語技術の授業がスタートしたから」と話す。

「素直」「自主性」重んじて 釜谷理事長 生徒への思い。私たちが取材班は、令和元年から学校法人履正社の理事長を務める釜谷先生にインタビューを行った。釜谷先生は「素直であること」と「自主性であること」とを大切にしている。釜谷先生は「人間として大きく、美しくなるために必要不可欠な要素である」と話す。最後に、自主性を重んじている釜谷理事長は、履正社中学校の生徒が、どのような生活を送っているかについて話を聞いた。取材を終えて、私たちは釜谷理事長が大切にしている思いと、皆さんの改革について知ることができた。(郭辰琳、小林未来、近久祐希)

一歩踏み出す大切さ学ぶ 楽天イーグルス・内星龍選手



私たちが取材班は、プロ野球・楽天イーグルスの投手である内星龍選手にインタビューした。高校時代の思い出について質問すると、「恩師の多田監督から『振らないと当たらない』というアドバイスをもらった」と話した。一歩前へ踏み出すことが大切だと述べた。内星選手は高校の3年間、学級委員長を務めていた。また、毎日自主的に教室を隅々まで掃除していた。最初は野球部員のみで掃除していたが、取り組むうちにサッカー部員も手伝ってくれるようになった。

脇坂先生「理科を楽しく」

私たちが取材班は、履正社中学で理科を担当している脇坂英司先生にインタビューした。脇坂先生は「理科を楽しく」を授業の目標としている。脇坂先生は「理科の教師になることが夢だった」と話す。脇坂先生は「理科の教師になることが夢だった」と話す。脇坂先生は「理科の教師になることが夢だった」と話す。



脇坂先生は「理科を楽しく」を授業の目標としている。脇坂先生は「理科の教師になることが夢だった」と話す。脇坂先生は「理科の教師になることが夢だった」と話す。脇坂先生は「理科の教師になることが夢だった」と話す。

釜谷理事長は「素直であること」と「自主性であること」とを大切にしている。釜谷先生は「人間として大きく、美しくなるために必要不可欠な要素である」と話す。最後に、自主性を重んじている釜谷理事長は、履正社中学校の生徒が、どのような生活を送っているかについて話を聞いた。取材を終えて、私たちは釜谷理事長が大切にしている思いと、皆さんの改革について知ることができた。(郭辰琳、小林未来、近久祐希)

不在文字情報 (0) 不在画像情報 (0) あふれ記事情報 (0) 最適化未処理情報 (0) モノクロ不在画像情報 (0)



学藝コース2年生が取材し、記事を書きました。記事・レイアウトは産経新聞社の協力を得て作成しました。



令和7年(2025) 3/19 [水]

履正社中学校

〒561-0874 大阪府豊中市長興寺南4丁目3番19号 TEL: 06-6864-0456 FAX: 06-6865-1508

履正社中の「魁」目指し



日本一になるという目標を掲げる高校硬式野球部の多田晃監督

互いに高め合い

硬式野球部 常に「勝利」念頭

私たち取材班は、履正社高校硬式野球部の多田晃監督とキャプテンの矢野選手に取材した。同部では、監督や選手ともに「チームが勝つため」を考えた日々の練習に励んでいることを感じ、同部の強さの秘訣（ひけつ）だと思った。

多田監督は、平成18年に同高のコーチとなり、令和4年から監督を務めている。監督として大切にしていることは「限られた練習時間の中で、日本一になるという目標を達成するためにどのような準備が必要かを考える」と、選手との対戦相手について考え、「常に試合に勝つことを考えたコミュニケーション」を話す。矢野選手は「試合で勝つためには、練習の質を上げる必要がある」と話す。矢野選手は「試合で勝つためには、練習の質を上げる必要がある」と話す。

同部では、2年前から「試合で勝つためには、練習の質を上げる必要がある」と話す。矢野選手は「試合で勝つためには、練習の質を上げる必要がある」と話す。

同部では、2年前から「試合で勝つためには、練習の質を上げる必要がある」と話す。矢野選手は「試合で勝つためには、練習の質を上げる必要がある」と話す。

前生徒会長・越智さん エール



生徒会選挙の立会演説会で校則について訴えかける越智陽斗さん

私たち取材班は昨年12月、履正社中学3年生で、前生徒会長の越智陽斗さんにインタビューをした。任期中は「履正社中学校の『魁』になる」という心を持ち、この心で生徒会に入りたいという越智さん。これから生徒会を目指している人にも、越智さんのエールを送りたい。

越智さんが生徒会に入りたいという理由として、学校の校則について訴えたいという思いがある。越智さんは「学校の校則は、生徒の生活に大きな影響を与えている。特に、制服や髪型に関する校則は、生徒の個性を表現する機会を奪っている。私は、生徒が自分らしく生きられるような校則を求めたい」と話す。

越智さんは後輩たちに「自分自身が学校生活で学んだことを、社会で活かす能力を身につけてほしい」と話している。越智さんは「学校生活で学んだことを、社会で活かす能力を身につけてほしい」と話している。

越智さんは「学校生活で学んだことを、社会で活かす能力を身につけてほしい」と話している。越智さんは「学校生活で学んだことを、社会で活かす能力を身につけてほしい」と話している。



履正社中学サッカー部

サッカー通じ心の成長も

顧問の稲田先生

私たち取材班は、中学サッカー部の顧問の稲田先生にインタビューを行った。稲田先生は「サッカーを通じて、生徒の成長を支援したい」と話す。稲田先生は「サッカーを通じて、生徒の成長を支援したい」と話す。

稲田先生は「サッカーを通じて、生徒の成長を支援したい」と話す。稲田先生は「サッカーを通じて、生徒の成長を支援したい」と話す。

稲田先生は「サッカーを通じて、生徒の成長を支援したい」と話す。稲田先生は「サッカーを通じて、生徒の成長を支援したい」と話す。

豚やイカの解剖 思い出 前田先生

私たちは学藝コースの理科を担当している前田先生にインタビューを行った。前田先生は「豚やイカの解剖を通じて、生徒の観察力や思考力を鍛えたい」と話す。前田先生は「豚やイカの解剖を通じて、生徒の観察力や思考力を鍛えたい」と話す。

前田先生は「豚やイカの解剖を通じて、生徒の観察力や思考力を鍛えたい」と話す。前田先生は「豚やイカの解剖を通じて、生徒の観察力や思考力を鍛えたい」と話す。



「ベースを弾いて歌を歌うことが好き」と話す前田先生

前田先生は「豚やイカの解剖を通じて、生徒の観察力や思考力を鍛えたい」と話す。前田先生は「豚やイカの解剖を通じて、生徒の観察力や思考力を鍛えたい」と話す。

前田先生は「豚やイカの解剖を通じて、生徒の観察力や思考力を鍛えたい」と話す。前田先生は「豚やイカの解剖を通じて、生徒の観察力や思考力を鍛えたい」と話す。

社会で通じる能力を

バスケット顧問、久場先生 部員への思い



バスケットボール部の練習風景

私たちは取材班は、履正社中学校バスケットボール部の顧問である久場先生にインタビューを行った。久場先生は「バスケットを通じて、生徒のコミュニケーション能力を鍛えたい」と話す。久場先生は「バスケットを通じて、生徒のコミュニケーション能力を鍛えたい」と話す。

久場先生は「バスケットを通じて、生徒のコミュニケーション能力を鍛えたい」と話す。久場先生は「バスケットを通じて、生徒のコミュニケーション能力を鍛えたい」と話す。

新聞 履正社中

令和7年(2025) 3/19 [水]

履正社中学校

〒561-0874
大阪府豊中市長興寺南4丁目3番19号
TEL: 06-6864-0456
FAX: 06-6865-1508

学藝コース2年生が取材し、記事を書きました。記事・レイアウトは産経新聞社の協力を得て作成しました。

誰もが楽しめる運動会



誰もが楽しめる工夫がされている運動会

3人1組で浮輪に入り、1位を目指す「RISSEI SH Aビックウェーブ」など、新たなオリジナル種目を担当しており、バスケットが注目を集めた昨年10月の履正社中学校の運動会。私たちが取材したのは、運動会の企画や、中高を分けて行う理由などについて質問した。運動会は毎年履正社中学校のグラウンドで行われている。まず種目は、クラス対抗リレーや障害物リレー、などの定番種目に加え、大綱跳びなどの学年別種目はもちろん、本校オリジナルの種目も多くある。計算問題を解かないとゴールできない「早朝テストリレー」、シューティング風船やじゃんけんをリレー形式でつなぐ「パラエティリレー」などだ。今年度新たに、「RISSEI SH Aビックウェーブ」と、テニスラケットにテニスボールを乗せ、その数と順位を競う「しっぺりたっくさんレース」が加わった。

運動の得手不得手 影響ないように工夫

「運動の得意不得意があまり影響しない。」「作戦を立てることが勝利につながる、勝敗が分かりやすいように工夫している」と久場先生は教えてくれた。次に中高を分けて行う理由を尋ねると「生徒がより多くの種目に出場でき、保護者が多く入場できるから」とい、「みんなに運動会を楽しんでもらいたい」と話した。さらに名称が「体育祭」ではなく「運動会」としている理由について、久場先生は「体育の好き嫌い関係なく、誰でも楽しめることがコンセプトだから」と笑顔で話した。常に100名以上が応援してほしくという。取材の最後に久場先生は、「運動会にはさまざまな先生に意見を聞くことで、いろいろな視点から考えることができる。さらに考え方にギャップが生まれる」と話した。運動会に対する久場先生の責任感や、熱意が伝わった。

学校環境や生活を守る 校務員の青柳さん「いたずらは悲しい」



私たちの安全な学校生活をサポートしてくれる校務員の青柳さん

学校内の設備や環境を整えて、私たちの安全な学校生活をサポートしてくれる「校務員」という仕事を知らずにいるだろうか。私たち取材班は、履正社中学校の校務員である青柳晴晴さんに取材し、仕事のやりがいや日々の業務などについて伺った。

青柳さんは2年前に紙を断裁する仕事を定年退職した。その後、もともと学校で働くことに興味があったため、校務員の仕事を志したという。その中でも履正社を選んだ理由は、家が近かったからだそう。

校内の清掃の際、洗剤は主に肌や環境に優しい次亜塩素酸を使用しているという。しつこい汚れの場合、家庭でも使われているアルカリ性洗剤を使用しているそうだ。青柳さんは「生徒が校舎を大切にしている行為を見ているのは、とても悲しい」と肩を落とした。

最後に、青柳さんは「生徒に作業中に感謝を伝えられることに喜びを感じています。また、ガラスが割れたら、すぐに交換してあげたいですね。生徒が安心して学校生活を送れるようにしたいです。」と話した。

塾の厳しい先生にあこがれて

東藤航征先生



履正社で言語技術や、探究の授業などを学ぶことが面白い」と話す東藤航征先生

私たち取材班は、学藝コースの国語の授業を担当している東藤航征先生に、学生時代や履正社での教員生活などについて取材した。東藤先生は、履正社に来てよかったことについて「自分の知らなかったことを勉強する機会をもらった」と話してくれた。今までの学校になかった言語技術や、探究の授業など学ぶことが面白かったという。学生時代はゲームとバスケットボールが大好きで、地元のお祭りのボランティア(布田太鼓)で勉強が苦手だったこと

教師の道、選んだ道

私たち取材班は、2年A組の担任の先生であり、数学の授業を担当している増田憲昭先生にインタビューした。増田先生は数学の先生だが、「言語技術」の授業や「総合的な探究の時間」の授業も受け持っている。仕事のやりがいなどについてくわしく聞いた。

増田憲昭先生



「自分ができることに精いっぱい取り組んで」と話す増田憲昭先生

増田先生は教師を志したきっかけは、「学生のころクラスの友達に勉強のサポートをしてほしい」という思いがあったという。増田先生は中学校1年から中学3年まで選手としてプレーしていたという。当時のポジションはフォワードだった。

増田先生は本校へ赴任して2年目だ。以前勤めていた学校の生徒と比べると、履正社中学校は素直な生徒が多い印象だという。また、仕事のやりがいについて「生徒同士で協力してさまざまな学校行事に一生懸命に取り組んでくれることが何よりも励みになる」と語ってくれた。

学びをたのしむ人へ。

履正社中学校・高等学校



〒561-0874 大阪府豊中市長興寺南4丁目3番19号 TEL: 06-6864-0456(代)

riscisha.ed.jp

【アクセス】JR東宝線「長興寺南」駅より徒歩15分/北大阪急行「長興寺南」駅より徒歩18分

履正社中学校・高等学校

学藝コース2年生が取材し、記事を書きました。記事・レイアウトは産経新聞社の協力を得て作成しました。



令和7年(2025) 3/19 [水] 履正社中学校 〒561-0874 大阪府豊中市長興寺南4丁目3番19号 TEL: 06-6864-0456 FAX: 06-6865-1508

文化祭 団結力強まる



昨年9月、履正社中学・高校で、文化祭「青空フェスタ」が行われた。私たちが、学藝コース2年生A組、B組それぞれが取材を行った。A組は「ハリ・ポッター」の劇を披露した。劇の台本制作から衣装選び、演技指導まで生徒だけで行ったという。劇の台本を担当したのは、吉竹さんだ。「ハリ・ポッター」シリーズが大好きで、楽しそうだなと思って、笑顔を話して、台本を書くことに対して抵抗はなかったそうだ。書くときに工夫したことは、何作もある「ハリ・ポッター」シリーズを簡単に15分にまとめること。ネタを入れておもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくすることとおもしろくこと

クラスで作品作り上げ

が集中できていない状況での練習など何回も壁にぶち当たった。しかし、力を合わせて乗り越えることができたと思う。「皆から相談を受けて頼られたときや、緑日に来た人の笑顔を見たときにやってくれたらと思う」と話す木村さん。「文化祭前は個々の意見のぶつかりがあったクラスだったが、文化祭を通して団結力と一体感が生まれた」と笑顔で話してくれた。

このように、文化祭によってクラスに良い変化がもたらされた。私たちが楽しむことができた。

(井刈俊輔、岩崎優希、杉江慧大、樋之内美乃里)



M-T-Mで日本一へ

サッカー部 試合の課題練習に生かす

昨年12月、本校の茨木グラウンド(大阪府茨木市)で、高校サッカー部の平野直樹監督といずれも高校2年の宮川優月選手、宗佐大地選手、堀江純之介選手にインタビューを行った。平成15年の同部創部と同時に就任した平野監督には、監督としての夢、選手たちにはサッカーを始めたきっかけなどについて取材した。

平野監督によると、普段の練習は「M-T-M」の繰り返しだとい

一流選手のマネばかりではなく、基礎ができていない状況や変化に対応できるようにしなければならぬと強調する。最後に、監督としての夢は、「日本代表がW杯で優勝すること。その日本代表の中に、履正社でサッカーをしていく選手がいたらうれしい」と語ってくれた。「いい指導者がいればいい選手が育つ可能性がある」と語り、指導者を育てるための取り組みも行っているという。

宮川選手、宗佐選手、堀江選手がサッカーを始めたきっかけは、兄がサッカーをしていたからだといふ。3人のポジションは、宮川選手、堀江選手がセンターバックで、宗佐選手はボランチだそう。

そのポジションが好きなの理由について、堀江選手は「相手からボールを取ってプレイングするのが好きだから」。宗佐選手は、「よくボールが回ってくる。自分で試合を組み立てられる。話してくれたい」と話している。

「しっかり、まっすぐ育てほしい」と履正社中学の生徒にエールを送る江川昭夫校長

江川昭夫校長にインタビューを行い、教師になったきっかけや、仕事内容、生徒に望むことなどを伺った。

「もともと航空関係の仕事に就きたかった」と話す江川校長。幼少期はプラモデルなど飛行機のおもちゃが好きで、パイロットや航空関係の仕事に入るのが夢だったと語った。自分が教師になったとは思っていなかったという。

英語の教師になること思ったきっかけは、今後の社会はグローバル化が進み、英語が大切になる責任を負わなければならない。これが担任の先生坂本知生、山下御重)

個性輝かせ人生力強く

江川校長、生徒に望む

皆さんは、校長先生が、私たち取材班は、今年度から校長として履正社中学校に赴任してきた。試合中に意識していることを聞くと、宗佐選手は「ボールを受けるときに首を振り、味方の位置を確認してみんなにボールを出せるようにすること」と答えた。宮川選手は「緊張することが多いので、正確なキックをする」ことを徹底的に意識しているそう。同部が掲げるプレアリーグ昇格、日本一になるために、各選手が考えてプレーしていることが分かった。

同部の今後の躍進に期待したい。

(伊藤謙、田口雄之丞、竹内奏、西垣通、深田琥珀、福井啓介、吉田輝基、吉竹つたの)

の学校で25年間英語の教師をし、教頭としても15年間勤めていたという。校長としての仕事について尋ねると、他校の校長先生との会議への参加したり、学校の教育方針を定めたり、授業中の教師と生徒の様子を把握することなどを教えてくれた。「教室を見ていると、生徒たちが自分に気付いて手を振ってくれているのがうれしい」とほえむ。ほかに、取材した時期は受験シーズンだったため、入試に備え、中学3年生の内申書の確認もしているという。

そして校長の職務で一番重要なことは、「最終的な判断をすることができ、それゆえに学校の全責任を負わなければならない。これが担任の先生坂本知生、山下御重)

登校は朝7時/スマホ没収1学期間

1月14~17日の4日間、インドネシアの首都ジャカルタにあるサンタ・ウルスラ女子高校の生徒28人と教員2人が、履正社中高を訪れ、生徒や教職員と国際交流を行った。取材班は、サンタ・ウルスラ女子高の生徒で、2年A組の教室で過ごしていたヴィニーさんとエマさんにインタビューをし、日本とインドネシアの違いなどについて尋ねた。

まず、日本とインドネシアの学校の習慣や校則の違いについて話を聞いた。ヴィニーさんによると、同女子高は午前7時に授業が始まるという。また、校則については「日本の校則とそれほど変わらない所もあるが、厳しい所も多い」と教えてくれた。

例えば、髪形はいつも髪を束ねなければいけないという。また、スマートフォン



留学生が高校事情語る

来日して一番うれしかったことは「セブンイレブンのグラタンを食べたこと」と笑顔で話してくれた。エマさんは以前家族で日本を訪れたことがあり、その時に食べたグラタンが忘れられず、今回また食べることでうれしかったそう。

取材は主に英語で行った。インドネシアの暮らしなどを知ることができたことだけでなく、今回の国際交流は、私たちにとってとてもいい経験になった。(深田琥珀、中野優姫、村田愛心、奥野航)

できたてこだわりパンも手作り

食堂の鈴木さん 衛生面に細心の注意



履正社中学・高校の生徒たちに食べても大丈夫という思いから、毎日パンを手作りしている。そんなパンを運んでいる「都焼きたて」のパンの中で一番人気なのが「鳥かば井」(150円)だ。鳥かば井は、鶏肉を焼いた上から、かば井という調味料をかけたパンだ。最近ではチーズパンも人気があるという。

鈴木さんによると、鳥かば井やパンは、本日から送られてくるレシボを見ながら作っているという。新メニューのレシボも本社から送られてくるそう。仕事をしながら

調理の際に気を付けていることと尋ねると、「衛生面を考慮して、いつも調理前に消毒をし、服装も髪の毛が落ちないように帽子を被っている」と教えてくれた。平成29年に完成した新校舎の方が、旧校舎に比べて環境がいいそう。

食堂が人気があるため毎日忙いもの、鈴木さんによると、特に週明けの月曜日が忙しいという。普段は6~7人でそれぞれ役割を分担し、食堂を営業している。

履正社食堂で動き始めた15年という鈴木さん。「体が動かせる間は、この食堂で働いていたい」と意気込みを聞かせてくれた。

取材を終えて、食材や人への感謝をしっかりとすることがとても大事なと感じた。(坂本彰、伊崎大志、福島偉)

不在文字情報 (0)
不在画像情報 (0)
あふれ記事情報 (0)
最適化未処理情報 (0)
モノクロ不在画像情報 (0)